

木を食べる蛾(が)幼虫？

平成21年7月中下旬に次のような相談が立て続けに3件ありました。

相談内容は、「ホテルのウッドデッキ（木製の縁側）に蛾幼虫と思われる虫がたくさん出てきています。付近には、樹木がなく、蛾の幼虫が発生するとは思えません。木を食べているのでしょうか。」「人工的に作られた池に木製の橋が架かっています。その橋の上で多くの蛾幼虫が徘徊（はいかい）しています。付近には樹木がなく、蛾幼虫の発生する条件はありません。木材を食べていると思います。木製の橋が壊れてしまうのではないかと心配です。」「屋根の軒先にたくさんの蛾幼虫がいます。原因は、何でしょうか。」などでした。

原因は、蛾幼虫であること、木材の上で徘徊していること、付近には樹木がないことなど色々な共通点がある相談でした。

毒棘(どくきょく)を持つグループ

背面に多数のコブ状の隆起があり、その隆起には、多数の毒棘が確認できました。一見、ドクガの仲間と思われました。ところがドクガの仲間の幼虫には、第6腹節、第7腹節にそれぞれ1個の背腺と呼ばれる器官があります（第6節に背腺を欠くグループもあります。）。ところが検査依頼があった蛾幼虫には、背腺が確認できませんでした。また、腹部腹脚の鉤爪の並び方もドクガの仲間のものではありませんでした。

ドクガの仲間以外にもコブ状の隆起を持ち、その隆起に毒棘を持つグループがあります。ヒトリガの仲間です。さらに、腹脚、毒棘、体色などからヒトリガの仲間のヤネホソバと判断しました。

ヤネムシ

今では少なくなりましたが、昔、農村には、多くの茅葺（かやぶき）屋根の家屋がありました。何年にもわたって使用された茅葺屋根は、苔生（こけむ）してきます。その苔（こけ）を餌とするヤネホソバが発生し、家屋内に進入することから、ヤネムシ（屋根虫）と呼ばれることもあります。今回、相談のあった三つの事例も相談者に確認したところ、ホテルのウッドデッキにも、池に架かる橋にも、家の屋根にもうっそうと苔が生えているとのことでした。

被害

チャドクガのような毒針毛を持ちませんが、毒棘に触れると、痛みや発疹（はっしん）を生じるので、少し注意が必要です。

長雨

おぼろげな記憶ですが、過去10年間にヤネホソバの検査依頼があったのは、1件だったと思います。それが今年は、3件も立て続けにありました。3件もの検査依頼が集中したのは、異常気象の結果だと思っています。

今年は、降水量が多く、また、日照時間が少ないなどきわめて天候が不順でした。こうした天候は、ヤネホソバの食草の苔の繁殖を促し、ヤネホソバにとって好適な環境を作り出したのでしょう。

反面、この異常気象がどうやら不利に働いた種類がいます。同じヒトリガの仲間のアメリカシロヒトリです。色々な樹木に寄生し、大量発生することがあり、相談や苦情の原因となることが多い種類です。ヤネホソバの相談に来られた業者さんは、「ヤネホソバの殺虫依頼は、ありがたいのですが、その反面、今年は、アメリカシロヒトリの殺虫依頼がほとんどありません。これも長雨のせいでしょうか。商売がしにくい。」と嘆いておられました。

